スラムダンク組織論
(The Theory of Organization in SLAM DUNK)

1K08B062-6　北埜 翔平

指導教員　　主査　木村和彦先生　　副査　倉石平先生

目的

本論文では、井上雄彦氏が描いた「スラムダンク」（ジャンプコミックス全 31 巻、集英社、1991,1994 年）から理想の組織像・リーダー像を提示する.「スラムダンク」はバスケットボールを題材とした現代マンガを代表する大作品である.「スラムダンク」のに登場する組織を体系化された理論であるバーナード理論と照らし合わせ、バーナード理論をより理解しやすいものとする.また、現実社会の組織の変化のきっかけになることを本論文の目標とする.

はじめに

ここでは本論文の目的・研究方法・背景を総合的に記す. 私にとって「スラムダンク」は人生のバイブルともいえる作品である. 本論文ではそのスラムダンクに登場する組織・リーダーに焦点を当て、理想の組織像・リーダー像を提示する.「スラムダンク」を、現代においてもっとも理想とされる組織像・リーダー像を明らかにしている理論であり、体系化された理論であるバーナード理論と照らし合わせることで、完全な主観からの脱却をはかり、「スラムダンク」に内在しているバーナード理論との共通性を示すことで、バーナード理論が定める理想の組織像・リーダー像を、より簡易に理解できる論文を生み出す. これらを達成した結果、より広くわかりやすく理想の組織像・リーダー像が世に伝わることを望みとする.

第１章

第１章は「スラムダンクの人気とストーリー」と題し、スラムダンクの人気とストーリーの紹介を行う. ここでは井上雄彦氏が描いた「スラムダンク」という大作品が、どれほど世に影響をもたらしたかということを提示する目的がある.また、本論文をよりわかりやすくする目的で、「スラムダンク」の簡単なストーリー紹介を行う.

第２章

第２章は「バーナード理論」と題し、本論文の基礎となる、「経営者の役割（飯野春樹編）」の内容を抜粋する.これは、スラムダンクを組織的観点から見つめるにあたって、組織のあるべき姿を経営者の目線からえがいた組織に必要な要素をとらえるとともに、バーナード理論とはなにか、その存在意義を紹介する目的である.

第３章

第３章は「過去のスラムダンク研究」と題し、辻秀一氏の「スラムダンク勝利学」(集英社インターナショナル、2000,2011 年）と、斎藤孝氏の「スラムダンクを読み返せ！！」（パラダイム、2000,2009 年）を辻氏と斎藤氏の言葉を借りて要約・紹介する.これは過去のスラムダンクの研究が、組織としてではなく、個人的な心理的あるいは人間関係的研究であることを明らかにする. また、スラムダンクの人気や歴史に触れることで、スラムダンクという作品が人間の心理的・人間的な面をリアルに描写していることを紹介し、スラムダンクという作品を喜怒哀楽としてのマンガとは別の視点から楽しむファンの増加を願う. そして本論分のテーマである「スラムダンク組織論」が、組織に焦点を当てる新しいものであることを示す目的である。

第４章

第４章は「バーナード理論からみるスラムダンク」と題し、スラムダンクに登場する組織である、湘北・陵南・翔陽・豊玉高校のリーダー（主将および監督）に焦点を当て（場面・セリフ等を具体的に紹介)、それをバーナード理論と照らし合わせることによってそれぞれの組織としての理想的な部分を明らかにする.

第５章

第５章は本論文のまとめとし、第４章での分析結果を表にし、結果を考察する. 本論文では理想の組織の要素としてバーナード理論のＥ機能・Ｇ機能・Ｍ機能等をとりあげたが、これを満たす組織・リーダーが必ずしも成功すると保障するものではない. あくまで成功する可能性の高い理想の組織像・リーダー像を提示したということにとどめ、本論文が現実社会でなにか組織の変化のきっかけにでもなることがあると仮定するならば、それを望むこととする.